

都政は五輪のみにて

生きるにあらず

都政の潮流

「口撃」が止まらない
舛添知事は、新国立競技場の建設問題に関し、文部科学省とJSC（日本スポーツ振興センター）を旧帝国陸軍になぞらえて、「壮大な無責任」如について、下村文科相

任体制」と批判し、都が負担するとした500億円についても、かつての関係者の口約束には断じて、文部科学省の能力、責任感、危機感の欠

そらで、「私は建築の専門家ではないから

に執拗な「口撃」を続け、務もない」「私は建築の専門家ではないから」

森会長が楽しみにしてい

「充て職だから」と逃げ

た新国立競技場でのラグ

ビーワールドカップの開

票が必要だとまで言い出

す始末。さすがに、文科

省との関係悪化を懸念す

る森喜朗五輪組織委員会

会長や都議会自民党筋か

ら苦い「はちみつ」をな

めさせられて、知事もい

つたんは意氣消沈した。

「国が決める」とだか

ら、私には言う権利も義

務への提案が続く。

計画の白紙撤回を受

け、関係閣僚会議の設置、内閣官房に整備計画再検討推進室の設置、JSCの有識者会議の廃止……

と、流れは結果として知事の提案に沿つたものになってしまった。

勢い付いた知事は、文科省の失態だと担当者の言及。大臣の責任論にも処分され、大臣の責任論にも言及。役人に責任を取らせるべきだ。それをやらなければならないなら（大臣）が辞任すべきだ」「担当局は辞任し、更迭されるのは当たり前。信賞必罰で不祥事があつたら局長は辞任し、更迭されるべき長は自ら辞するべき」と畳み掛け。この

新エンブレムの使用は少

し様子を見る発言が波紋

を投げた。その余波で、

「更迭」されることにな

るのは自民党だ。次期

都連会長と目されている

下村大臣への執拗な口撃。

一連の政府・文科省批

判や責任追及論に面白く

ないのは自民党だ。次期

都連会長と目されている

下村大臣への執